NEWS23 週刊報告　　ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)
対象期間：7/23～7/27

・7/23(月)
　西日本豪雨災害や連日続く猛暑、北方領土問題などについて報じられました。北方領土問題についての報道は放送法第四条の観点から検証を行いましたが、特に問題点は見られませんでした。また、今回は西日本豪雨災害や連日続く猛暑に重点を置いた番組構成だったということを所感欄で記しました。

・7/24(火)
　自民党総裁選に向けて、金融庁が総務省に事前漏洩、杉田議員の論文、柳瀬経済産業審議官が退任、文科省と東京医大、北朝鮮問題などについて報じられました。これらの報道について放送法第四条の観点から検証を行いましたが、自民党総裁選に向けての報道、杉田議員の論文についての報道。柳瀬経済産業審議官が退任したことについての報道では放送法第四条の観点から問題が見られ、柳瀬経済産業審議官の退任についての報じ方には印象操作の疑いが見られました。また、自民党総裁選に向けてというトピックについては検証者の所感を記しました。

・7/25(水)
　文科省前局長逮捕事件、危険な暑さ続く、台風 12 号発生、西日本豪雨災害などについて報じられました。文科省前局長逮捕事件については放送法第四条の観点から検証を行いましたが、特に問題は見られませんでした。

・7/26(木)
　オウム死刑囚刑執行、文科省キャリア官僚逮捕、ポンペオ国務長官「北朝鮮は核物質生産継続」と発表、について報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の観点から検証を行ったところ、オウム死刑囚刑執行については高く評価できるものでした。

・7/27(金)
　辺野古移設問題 、米露関係などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の観点から検証を行いましたが、特に問題は見られませんでした。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局： TBS	番組名：NEWS23	放送日： 2018 年 7 月 23 日

出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙
※皆川キャスターは赤坂から中継
ゲスト：森田正光(気象予報士)

検証テーマ：北方領土問題

報道トピック一覧
・過去最高を更新する暑さ、気象庁「命の危険のある温度」
　スタジオで森田正光気象予報士が解説
　赤坂で皆川キャスターが中継
・茨城県かすみがうら市のアパートからコンクリで固められた遺体が見つかる
　発覚のきっかけは妻の提出した離婚届
・【現場から、西日本豪雨災害】石碑が伝える水害の記憶
・嵐、二宮さんが被災地へ
・大阪府堺市、あおり運転での交通事故に殺人罪適用
・北方領土問題：北方領土墓参で携帯没収、政府はロシア側に抗議
・スポーツ報道
・23Today
　埼玉県熊谷市で観測史上最高の 41.1℃
　“コンクリ遺体”夫に暴力も？
　北海道、庭の植物を食べ女性死亡、玉ねぎに似たイヌサフラン
　やまゆり園 46 人殺傷事件、間もなく二年、追悼式
　代々木立てこもり男を再逮捕
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨
・北方領土問題
　昨日、航空機による墓参を行った北方領土の元島民らおよそ 70 人と墓参に同行した日本政府関係者らの衛星携帯電話がロシア当局に没収されていたことがわかったことが報じられた。また、菅義偉官房長官の「現地当局により政府同行者及び同プレスの衛星携帯が没収されたことは事実であります。」というコメントが取り上げられると共に、菅官房長官はロシア側の対応について誠に遺憾なことだと厳しく批判し、昨日外交ルートを通じて我が国の法的立場に鑑みて受け入れられないと抗議し没収された衛星携帯電話の早期返却を求めていると述べたことが伝えられた。
　またスタジオでは星キャスターが「これね、非常に重要なポイントだと思うですね。ロシア側からすれば自分の法律で対応したということなんでしょうけれども、日本からすると北方領土は固有の領土ですから、ロシアにその法的権限はないという立場ですよね。北方領土の中では日本もロシアも法的権限があると主張してそこが非常に対立しているわけですよね。いまあの日本は共同経済活動というのを進めようとしているんですけれども、

仮にその日本の商社マンがね、北方領土で交通事故にあったと、そしたらどっちの国の法律で裁くかということはじつは決まっていないんですね、この問題をどうにか解決しない限り北方領土問題の本質的な前進はというのはじつは望めないという非常に複雑な問題になっていると思いますね。」とコメントしていた。

　このトピックについて当てられた時間は 89 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

　特になし

検証者所感

・番組構成

　西日本豪雨災害についてと連日続く猛暑について特に大きく取り上げられていた。

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局： TBS	番組名：NEWS23	放送日： 2018 年 7 月 24 日

出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙

検証テーマ：自民党総裁選に向けて、金融庁が総務省に事前漏洩、杉田議員の論文
柳瀬経済産業審議官が退任、文科省と東京医大、北朝鮮問題

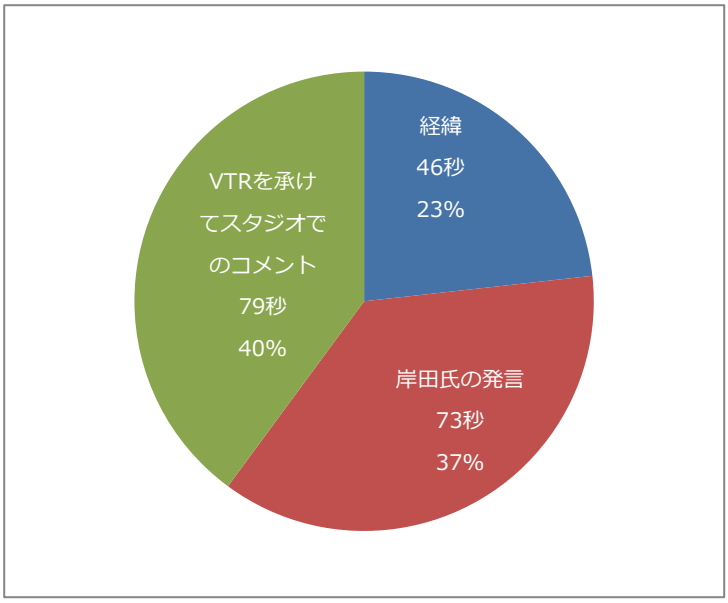
報道トピック一覧

・今日も各地で 39℃超え
・【現場から、西日本豪雨災害】広島県内の孤立する集落
・自民党総裁選に向けて
・金融庁が総務省に事前漏洩
・東京五輪あと 2 年、課題は
・杉田議員の論文
・柳瀬経済産業審議官が退任
・文科省と東京医大
・スポーツ報道
・23Today
　今日も酷暑続く
　岸田氏、総裁選へ不出馬表明
　【速報】ラオスで建設中ダム決壊
　北朝鮮問題
　ヤマト HD 子会社が引っ越し代を過大請求
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・自民党総裁選に向けて：結論→やや問題あり

　ポスト安倍総理の一人と目されている岸田政調会長が出馬を見送り安倍総理支持を表明したことについて報じられた。このトピックについては岸田氏が出馬を見送ったという事実を伝えるシーン、岸田氏の発言及びその補足のシーン、VTR を承けてのスタジオでのコメントおよび番組のクロージングでのコメントのシーンに大別された。これらシーンの時間配分及び比率は以下の通り。



岸田氏の発言及び補足のシーンでは以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

岸田文雄(自民党政調会長)「私としては、今回の自民党総裁選挙には出馬することはせず、安倍総理を中心に今申し上げたような様々な政治課題に取り組んでいく、そうしたこの取組に貢献をしていく。これが適切な対応ではないかと、このように判断した次第であります。」

ナレ「こう述べた上で安倍総理の参戦を支持する考えを明確にしました。出馬見送りの理由について西日本豪雨の復旧作業や外交問題を挙げ、これらの課題に安倍総理を中心に取り組むべきだと説明。」

ナレ「岸田氏が率いる派閥の中で次の次の総裁選を目指すべきだという意見があることについては。」

岸田文雄「気の早い話だと思います。一つ一つ目の前の政治課題、政治日程に真剣に取り組むということが大事です。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「実際の所、岸田氏が出馬を見送った理由は何でしょうか。」

星浩「２つあると思いますね。一つはね、もう出ても勝ち目がないということですね。国会議員票も党員票も安倍総理とか石破さんにかなり差をつけられていますからね。これではちょっと勝ち目はないと判断した所。もう一つは岸田さんは財政再建とかね、核軍縮の旗を掲げると言っているんですが、果たして本当に命がけででもね、そういうことをやるのか、やり通すのかというパッションと言いますかね、情熱に欠けていたと私は思いますね。」

駒田健吾「御本人は気が早い話とおっしゃっていましたが次の次の総裁選狙いという見方はありますよね。」

星浩「今、申し上げた２つ目のね、その政治リーダーに情熱が欠けているとね、中々支持というのは広がらないもので、例えば小泉さんは殺されてもいいから郵政を民営化するんだっていうんで、最終的には総理大臣を射止めて結局やり遂げましたよね、岸田さんそういうところがどうも足りないというところが今回露呈したと思いますね。」

また番組のクロージングでは以下に朱記したやり取りが行われた。

駒田健吾「岸田さんが総裁選から降りていささか盛り上がりに欠けるような気がするんですけれども。」

星浩「そうですね、総裁選挙、これで安倍さんと石破さんの一騎打ちなのか、そこにまぁ野田聖子さんが参入し

てくるのか、そのくらいで自民党の中では限定された選挙になりますし、そうすると世の中的には一つアピールが弱いかなという感じになりますよね。」

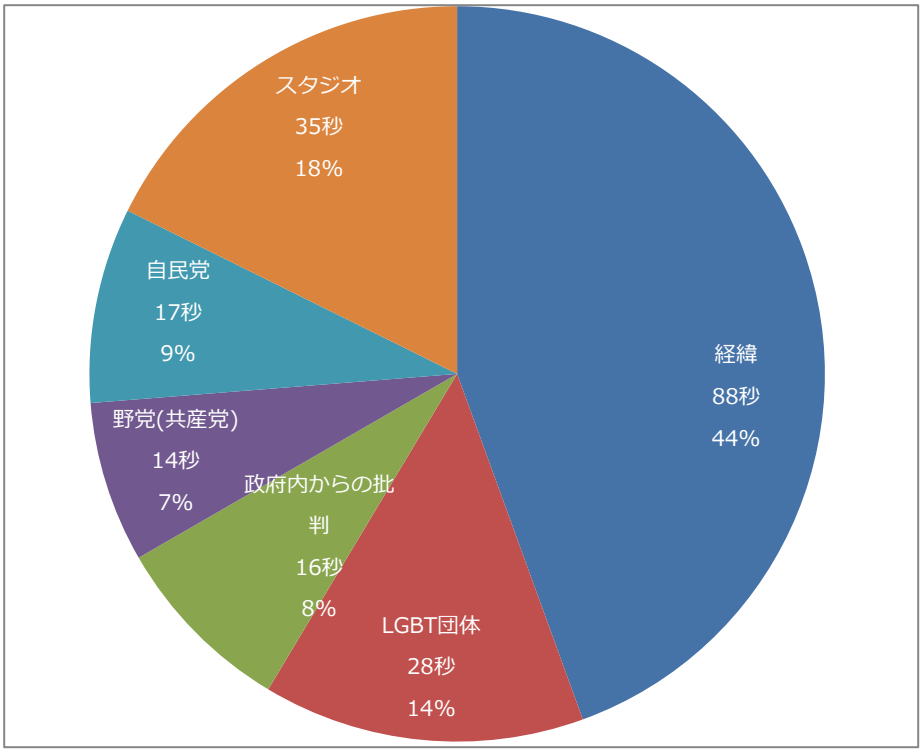
スタジオでの星キャスターのコメントはかなり岸田政調会長に対して辛口のコメントであった。星キャスターは岸田氏が安倍総裁の対抗馬として立つことを望んでいたのかもしれないが、そういう選択をしなかったからといって「情熱が欠けている」とコメントするのはあまりにも一方的であり放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に抵触する可能性がある。

・総務省と金融庁：結論→問題なし

今年１月、野田総務大臣の秘書が資金決済法違反の疑い調査を受けていた東京都内の企画会社の関係者を同席させた上で、金融庁の担当者から仮想通貨についての規制の仕組みなどについて説明を受けていたことを野田大臣が今日明らかにしたこと、一部の新聞社が金融庁に対しこの際の面会記録について情報公開請求を行っていたが金融庁はその内容や請求した会社名を開示前に総務省に伝えたということが報じられた。また菅義偉官房長官の「政府としては今回のことはあってはならないことだったというふうに思います。」というコメントが取り上げられたほか、金融庁は「事前に情報を伝えた事実を認めた上で条法公開法の趣旨に照らすと好ましくない対応であり深く反省している」とコメントしているとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 72 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・杉田水脈衆院議員の論文：結論→問題あり

自民党の杉田水脈衆院議員の論文が物議を醸していることについて報じられた。経緯説明及び杉田議員の論文の紹介、LGBT 団体の批判、野田聖子総務大臣による批判、野党(共産党)からの批判、自民党内からの二階幹事長のコメント、VTR を承けてのスタジオでのやり取りという場面に大別された。それぞれの場面への時間配分及び比率は以下の通りだった。



経緯及び杉田議員の論文の紹介では以下に朱記したシーンが流された。

皆川玲奈「子供を作らないから生産性がない、自民党の女性議員が LGBT,レズビアンやゲイなど性的少数者について寄せた文章を巡って波紋が広がっています。」

ナレ「今月 18 日発売の新潮 45、LGBT 支援の度が過ぎると題された文章が掲載されました。」

音声「LGBT のカップルのために税金を使うことに賛同が得られるものでしょうか。」

ナレ「レズビアンやゲイなど性的少数者に対する行政支援を疑問視する記述、その根拠として生産性がないと書かれています。」

音声「彼ら彼女らは子供を作らない、つまり生産性がないのです、そこに税金を投入することが果たしていいのかどうか。」

ナレ「寄稿したのは自民党の杉田水脈衆議院議員。現在当選二階です。月刊誌には LGBT に対する行政支援を疑問視する内容や LGBT に対する報道への批判が綴られています。さらには」

音声「LGBT だからといって実際そんなに差別されているものでしょうか。」

LGBT 団体の声では LGBT 法連合会の増原裕子さんの「事実としてひどい差別や偏見にされされているわけなので国会議員として人の命を守り人権を守る存在としてこういう認識で本当にいいのかと思います。差別の現状というものをちゃんと見ていただいてそれに対してしっかりと発言をしてほしいなと思います。」というコメントが取り上げられていた。

政府内からの批判では野田聖子総務相の「LGBT の人権や差別をなくそうということで法務省が中心となって取り組んでいる最中でありますし自民党国会議員としてその流れに水を指すようなことをするべきではない。」というコメントが取り上げられていた。

野党からの批判では共産党の小池晃書記局長の「無知、無理解、悪意に満ちた偏見、あまりに悪質な発言だと、

議員は辞職すべきだと思います。」というコメントが取り上げられていた。

自民党内からの声では「一方、自民党の二階幹事長は多様性を受け入れる社会の実現を図ることが大事だとしながらも、発言そのものについては色々な考え方の人がいる、と述べるにとどめています。」とナレーションが伝えていた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「この杉田氏の主張には自民党内からも批判が出ていますね。」

星浩「そうですね、まず LGBT については自民党にも見解がありましてね当事者が抱える困難の解消を目指すべきだと、していますのでその見解には反するんですね。自民党はよく野党に対して考え方がバラバラだって批判するですけれども、こういう重大な問題で自民党こそ考えにばらつきがあるようですよね。私はそもそもですよね、政治家が特定の人に対して生産性がないと断定することについて自体がですね、非常に問題がある発言だと思いますね。」

杉田氏の論文に対しては批判的な声が多く取り上げられていたが、この事自体については取り上げ方に大きな偏りがあるといえるものではなかった。しかし、物議を醸している当の杉田氏本人になんの取材もしていないという点においては、放送法第四条一項二号の「政治的に公平である」に照らすと不十分なものだったと言わざるを得ないだろう。

・柳瀬経済産業審議官が退任：結論→やや問題あり

経済産業省は安倍総理大臣の元秘書官で加計学園の獣医学部新設を巡って国会に参考人として呼ばれた柳瀬唯夫経済産業審議官を退任させると発表したということが報じられるとともに、柳瀬氏について加計学園や愛媛県の家計者との面会について記憶にないを連発するも証人喚問では一転して「加計学園の方、その関係者の方と面会いたしました、随行者の中に愛媛県や今治市の方たちがいらっしゃったのかな、かもしれないな、というふうに思います。」と証言していたことや獣医学部新設を巡って「本件は首相案件」と発言したことから、柳瀬氏の言動が獣医学部新設が加計ありきだったのではという疑念を招いたとも伝えられた。

今回の人事について世耕弘成経産相の「今回の人事にも、何ら影響をしていない。」というコメントとある政府関係者の「疑惑に関する答弁に追われた柳瀬氏をこれ以上抱えることを避け、経産省の体制を立て直したいという意味もある。」というコメントが紹介されていた。またナレーションでは「参考人招致直後に行われた世論調査では柳瀬氏の説明に納得できないと回答した人が 80%に登りましたが十分な説明をしないまま退任することになりました。」と伝えられていた。

このトピックについて当てられた時間は 102 秒だった。

経済産業審議官が次官級の上がりポストであり、１～３年間の任期を終えると退官するというのが相場であることなどは重要な事実であるにもかかわらず全く伝えられておらず、加計学園問題との関わりに焦点が当てられていたという点では放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点や同三号「報道は事実をまげないですること」という点に照らすと不十分であったとされる

・文科省と東京医大：結論→特に問題なし

文部科学省の前局長が東京医大に便宜を図る見返りに息子を不正に合格させてもらった事件について、東京地

検特捜部は前局長の佐野太被告ら二人を起訴し東京医大の前理事長臼井正彦被告ら二人を贈賄の罪で在宅起訴したこと、関係者によると贈賄側の二人は起訴内容を認めていて収賄側の二人は否認しているということ、特捜部が電子データを解析した結果前局長の息子を含む複数の受験生が不正に加点されていることがわかり特捜部は不正合格を裏付ける証拠と見ているとのことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 50 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・北朝鮮問題：結論→特に問題なし

アメリカの北朝鮮分析サイト 38 ノースは北朝鮮トンチャンリにあるソヘ衛生発射場の最新の衛星写真を公開したこと、22 日撮影の写真ではミサイルなどの発射直前に使う機材の一部が取り外されていて 38 ノースは発射場の解体が始まったと分析していることが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 23 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・柳瀬経済産業審議官が退任：結論→問題あり

経済産業審議官が次官級の上がりポストであり、１～３年間の任期を終えると退官するというのが相場であることを伝えずに、加計問題との関わりばかりに焦点を当てた報じ方は、通常の霞ヶ関の人事として退任だったという可能性を視聴者に対して隠すことで、「加計学園問題が原因で退任に至ったのだ」という印象を意図的に与えるような報道であった。これは霞ヶ関人事に詳しくない一般視聴者の無知につけ込んでいるという点で悪質と言える。

検証者所感

・自民党総裁選に向けて

星キャスターの口から「その政治リーダーに情熱が欠けているとね、中々支持というのは広がらないもので、例えば小泉さんは殺されてもいいから郵政を民営化するんだっていうんで、最終的には総理大臣を射止めて結局やり遂げましたよね、岸田さんそういうところがどうも足りないというところが今回露呈したと思いますね。」というコメントが出るとは思いもしなかった。確かに小泉元総理は「殺されてもいいから郵政を民営化する」という熱を持っていたことは事実であるが、郵政民営化を実現するために小泉氏が行ったことは郵政解散での造反組に対する公認剥奪と刺客擁立に代表されるような「抵抗勢力」「敵対勢力」「敵対派閥」との徹底した権力闘争・政治闘争であった。小泉元総理の「情熱」にはそういった政治手法を伴っていたということを星キャスターがどう認識していたのだろうか、気になるところではある。

また、郵政についてはかつて「郵政族」と呼ばれる族議員も存在し利権や票が絡む問題であったこと、郵政で造反者を多く出すことになった橋本派や亀井派と小泉氏は総裁選以前から対立関係にあったこともあり、「殺されてもいいから」というのはあながち冗談ではなかっただろう。

対して岸田氏は安倍総裁との関係は比較的良好と伝えられており、そもそもの敵対勢力に対して政治闘争を仕掛けた小泉氏の事例をひきながら「情熱が欠けている」などと批判するのは的外れではないだろうか。

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送：2018 年 6 月 25 日

出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙

検証テーマ：文科省前局長逮捕事件

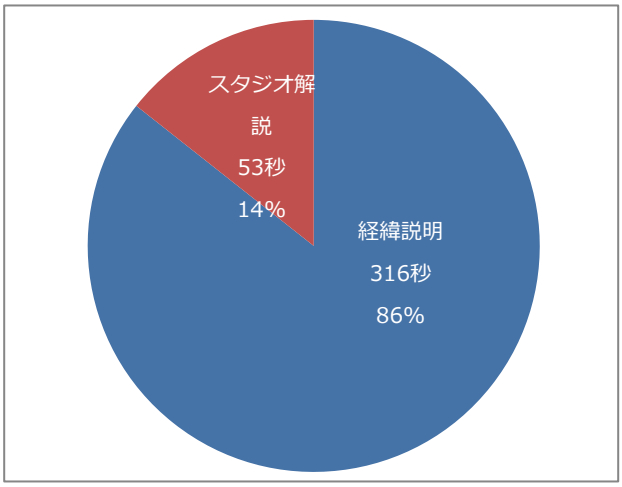
報道トピック一覧

・文科省前局長逮捕事件
・危険な暑さ続く
・台風 12 号発生
・西日本豪雨災害
・三重死体遺棄事件
・たこ焼き店主が脱税
・横浜横須賀通りで車が逆走
・フェイクニュースに伊賀市困惑
・スポーツ報道
・23Today
　・築地市場と豊洲市場を巡るバスツアー
　・睡眠導入剤使い性的暴行事件発生
　・アテネ郊外で大規模火災発生
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・文科省前局長逮捕事件：結論→特に問題なし

今回は文科省前局長が東京医科大学に息子を不正入学させ、逮捕された事件について容疑者たちの逮捕前のやり取りの録音音声が流された。このトピックに当てられた報道時間は 369 秒であった。今トピックでは経緯説明とスタジオ解説に焦点が当てられた内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。



また、スタジオ解説の内容は以下の通り。

駒田「生々しい音声をお聞きいただきました。続いてこちらを御覧ください。今回の事件を受けまして、文科省の職員有志が今日、事務次官ら幹部に対して異例の申し入れを行いました。中を見ていきますと、国民の信頼を大きく損なう事態が続いていることに強い危機感を覚えているとして、信頼回復のための対応を求めていますね。」

星「文科省は天下り問題がありまして、それから無かったはずの加計学園の文書が出てきたり、それから今回の贈収賄事件でしょう。不祥事が相次いでいるわけですよね。多くの国民からすると子供の教育をあずかる役所なのに一体どうなってんだということでしょうから、今回の異例な有志職員の申し入れを受けて、問題点を洗い出して、抜本改革をする必要があると思いますね。」

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし。

検証者所感

特になし。

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局： TBS	番組名：NEWS23	放送日： 2018 年 7 月 26 日

出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙

検証テーマ：オウム死刑囚刑執行、文科省キャリア官僚逮捕、ポンペオ国務長官「北朝鮮は核物質生産継続」

報道トピック一覧

・JR 新山口駅で火災
・台風 12 号
・東京多摩市で火災
・オウム死刑囚刑執行
・相模原 46 人殺傷事件
・西日本豪雨
・文科省キャリア官僚逮捕
・スポーツ情報
・23Today
　大型クレーンが倒れ死傷者
　ポンペオ国務長官「北朝鮮は核物質生産継続」
　埼玉でパンク被害
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・オウム死刑囚刑執行→結論：放送法第四条第一項四号の見地から高評価

7 月 6 日に行われた松本智津夫元死刑囚ら 7 人に続いて残る 6 人の死刑が執行されたことについての報道。トピックスの報道時間は 540 秒であった。

番組前半では死刑の執行を受けた遺族の方々の反応が紹介されていた。地下鉄サリン事件の遺族である高橋シズヱさんは「13 人の死刑が執行されて刑事司法としては、まあ終わったということになるのかもしれませんけれども、執行はされても被害者の被害はまだ続いているという、そういう状況で、すごい辛いなっていうふうには思います 。」とコメントしていた。また松本サリン事件で妻を亡くしながらもオウム死刑囚と面会をしていた河野義行さんは「修行する中で突然を方向が変わって、事件を起こしてしまったという。そのことがですね非常に残念だなと思うんですね。死刑執行が行われた。このことについてはやっぱり悲しい出来事、そんな思いがいたします。」と話していた。

番組後半では死刑執行の指示を下す法務大臣視点で展開され、元法相の千葉景子元法務大臣は「議論する場とかあるいは契機と言いましょうかね、そういうものがなかなかなかったのは事実。本当に死刑ってどういうものなんだと何か考え始める一つの契機にはなるかもしれないなと。」と答えていた。

これらを受けてスタジオでコメンテーターの星浩氏は「刑事事件は何とは別に何故この事件が起きたのか、その背景を探る必要があると思うんですよね。多くの若者がこの宗教にひかれてね犯罪に走ってしまった。その背景はいったい何なのか学会とかメディアがその犯罪心理学とかで社会心理学とかいろんな学問を総動員してね、

背景を探る努力が必要かなっていう気がしますね。」とコメントしていた。

死刑執行にあたって遺族の中での様々な意見や法相目線での報道など死刑制度に対して多角的かつ議論を促すような報道がなされていた。これは放送法第四条第一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」の観点から高く評価できる。

・文科省キャリア官僚逮捕→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

文部科学省国際統括官の川端和明容疑者が JAXA 宇宙航空研究開発機構の理事だった 2015 年 8 月から去年 3 月までの間に、元会社役員に便宜を図った見返りに飲食など 140 万円相当の接待を受けた収賄の疑いで逮捕されたことについての報道。コメンテーターの星浩氏は「前局長も今回の統括官も、その国家公務員倫理規定違反のその接待を受けているんですよね。その本来はそのそういう倫理規定違反はいけないと言うべき立場の人が自らルールを破っているって言う異常なことですよね。他の役所に聞いてみますと未だにこんなことやってんのかというので皆びっくりしているんですけども、今回その業者と役所を結ぶその仲介者がいろんな動きをしてたっていうのは特徴だと思いますね。いずれにしても教育を担当する役所ですからね。やっぱり綱紀粛正をきちっとやってもらいたいですよね。」とコメントしていた。なおこのトピックスは 93 秒報じられ、特に問題点は見当たらなかった。

・ポンペオ国務長官「北朝鮮は核物質生産継続」→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

ポンペオ国務長官が邦議会の公聴会で北朝鮮が依然として核物質の生産を継続していることは明らかにしたことについての報道。しかしトランプ大統領の任期が終わる 2021 年までの完全な非核化を目指すことに変わりはないと強調していた。このトピックスは 25 秒報じられ賛否が分かれる点は見当たらなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局： TBS テレビ	番組名： NEWS23	放送日： 2018 年 7 月 27 日

出演者：

星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙

検証テーマ：辺野古移設問題 、米露関係

報道トピック一覧

・台風 12 号接近　全国で影響

・西日本豪雨災害

・マカオのギャンブル依存症対策

・翁長知事、辺野古沖埋め立て承認の撤回に向けた手続きに

・プーチン大統領、首脳会談開催に触れ米露関係の改善に意欲

・カヌー鈴木選手書類送検

・朝鮮戦争休戦 65 年。米兵遺骨が返還される

・スポーツ報道

・23Today

　43 人死傷　多摩ビル火災　火花が断熱材に引火か

　セクハラ問題で辞任の財務次官　後継が決まる

　汚職で逮捕の文科省幹部　宇宙飛行士派遣で便宜か

・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・辺野古移設問題：結論→特に問題なし

　今回の報道は米軍基地建設を目的とする沖縄県辺野古沖埋め立て問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 115 秒だった。なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮キャスター「国と沖縄県の対立はますます激化しそうです」

星キャスター「これからは裁判で争うことになりまして、国の方は裁判で勝って工事を再開するということなのでしょう。しかし、今回の撤回は最後の手段なのですよね。沖縄をここまで追い込んできた国の責任はありますね。それから北朝鮮の非核化が始まるなど東アジアの情勢が変わってきている中で、この辺野古問題にもどう影響を与えるか、国はもっと説明する必要があります。」

・米露関係：結論→特に問題なし

　ロシアのプーチン大統領は 27 日、アメリカのトランプ大統領をモスクワに招待したことを明らかにしたこと、大統領選にロシアが介入したとの疑惑を巡ってアメリカ国内で批判が高まる中でトランプ政権は 25 日にプーチン氏の訪米時期を来年に延期したと発表したばかりであること、こうした中プーチン氏は首脳会談のためにはアメリカとロシア、双方に適切な条件が整う必要があるとしながらもワシントンに行く準備はあると語り両国の関係改善に意欲を示したとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 45 秒で、放送法第四条

の観点からは特に問題は見られなかった。
最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨 特になし
検証者所感